



学校法人
芝浦工業大学
概要 2022



INCORPORATED
EDUCATIONAL
INSTITUTION GUIDE



社会に学び、社会に貢献する 技術者の育成

芝浦工業大学の源は、1927（昭和2）年、有元史郎が創設した東京高等工商学校です。有元史郎が唱えたのは「現代文化の諸相を教材とし、社会的活動の意義を体得する教育」でした。この実学主義の教育により、実用的な知識と技術を併せ持ち技術立国を担う技術者、さらに高い倫理観と豊かな見識を備えた優れた技術者の育成に取り組み、社会の進歩発展に貢献してきました。これからも芝浦工業大学は、日本だけでなく海外との交流を通じて広く世界に学び、国際社会に貢献する大学としてグローバルな教育・研究力を発揮し、社会の期待に応えていきます。



校章

芝浦工業大学の伝統の地、芝浦は東京湾岸に位置します。学生たちは、海から潮の香届く校舎に学びました。

1949（昭和24）年、新制大学となったときに制定された芝浦工業大学の校章は、中心に据えた大文字「大学」の下支えに波動を配したものの。立地に恵まれて躍動、発展する工業大学の息吹を表現したデザインです。

考案したのは、波形が初代学長を務めた松縄信太（元理事長）、大学の字体が事務局長であった三浦元秀（元理事長）。二人の合作です。



創立者

有元 史郎

（1896—1938）

有元史郎は、1923（大正12）年、苦学の末に東京帝国大学（現 東京大学）工学部機械工学科を卒業。引き続き同大学経済学部に入學して経済学を学びました。向学心が強く、工学、経済学のほかにも、法学、文学、商学を修め、合わせて5つの学士号を取得しました。弱冠30歳、東京帝国大学の大学院生のときに東京高等工商学校を創立し、芝浦工業大学の礎を築きました。

学校法人 芝浦工業大学 沿革

1927 ▶ 昭和2年

東京府荏原郡大森町に東京高等工商学校設立（創立者 有元史郎）。その後、芝区（現港区）芝浦町に移転



東京高等工商学校 建築工学科1期生授業風景（1929年）

1943 ▶ 昭和18年

財団法人東京高等工商学校を設立（3月）。財団法人芝浦学園と名称変更（10月）

1949 ▶ 昭和24年

芝浦工業大学を設置、工学部機械工学科、土木工学科を開設



1931年頃 電気工学科電気実験

1950 ▶ 昭和25年

芝浦工業短期大学を設置（その後、1983（昭和58）年に廃止）

1951 ▶ 昭和26年

学校法人芝浦学園に組織変更

1953 ▶ 昭和28年

学校法人鉄道育英会を吸収合併。東京育英高等学校（現芝浦工業大学附属高等学校）の経営を継承

1962 ▶ 昭和37年

学校法人芝浦工業大学と名称変更

1963 ▶ 昭和38年

大学院工学研究科修士課程を開設、電気工学専攻（現電気電子情報工学専攻）、金属工学専攻（現材料工学専攻）、工業化学専攻（現応用化学専攻）を開設

1966 ▶ 昭和41年

埼玉県大宮市（現さいたま市）に大宮キャンパス竣工



1970年代後半 芝浦校舎正面

1980 ▶ 昭和55年

芝浦工業大学柏高等学校設置

1982 ▶ 昭和57年

芝浦工業大学高等学校を東京都板橋区に移転し、同時に中学校を設置

1991 ▶ 平成3年

システム工学部を開設、3学科を開設

1995 ▶ 平成7年

大学院工学研究科博士（後期）課程、地域環境システム専攻、機能制御システム専攻を開設

1997 ▶ 平成9年

先端工学研究機構を設置

1999 ▶ 平成11年

芝浦工業大学柏中学校を設置

2006 ▶ 平成18年

東京都江東区に豊洲キャンパス開校
芝浦キャンパスは取り壊し、再開発計画に入る

2008 ▶ 平成20年

システム工学部に生命科学科開設
工学部二部を廃止

2009 ▶ 平成21年

東京都港区に芝浦キャンパスを開校。デザイン工学部デザイン工学科を開設。システム工学部をシステム理工学部と名称変更し、併せて数理科学科開設

2011 ▶ 平成23年

大学院工学研究科を理工学研究科と名称変更し、システム理工学専攻を開設

2013 ▶ 平成25年

大宮キャンパスに国際学生寮を開設

2014 ▶ 平成26年

文部科学省スーパーグローバル大学創成支援事業に採択

2017 ▶ 平成29年

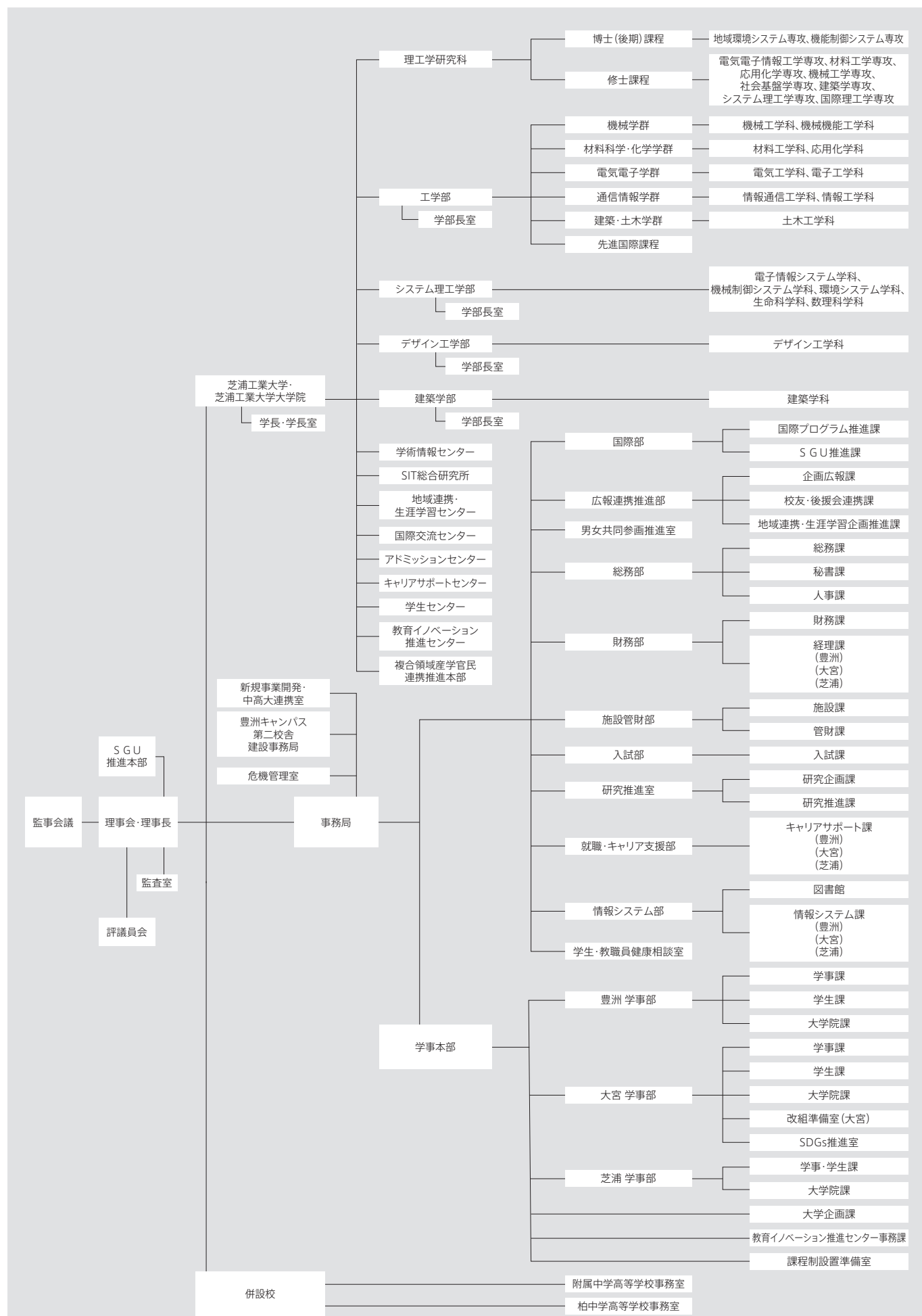
デザイン工学部デザイン工学科を再編
大学院理工学研究科に国際理工学専攻を設置
建築学部建築学科を開設
芝浦工業大学中学高等学校を江東区豊洲に移転し、新校舎を開校
併せて芝浦工業大学附属中学高等学校と名称変更

2020 ▶ 令和2年

工学部に先進国際課程を開設

2022 ▶ 令和4年

大宮キャンパスに駅伝部専用学生寮「白亜寮」を開設
豊洲キャンパスに新校舎「本部棟」を開設



芝浦工業大学

学長 山田 純

◆ 工学部

学部長 苅谷 義治

- 機械工学科
- 材料工学科
- 電気工学科
- 電子工学科
- 情報工学科
- 先進国際課程
- 機械機能工学科
- 応用化学科
- 情報通信工学科
- 土木工学科

◆ システム理工学部

学部長 澤田 英行

- 電子情報システム学科
- 機械制御システム学科
- 環境システム学科
- 生命科学科
- 数理科学科

◆ デザイン工学部

学部長 山崎 憲一

- デザイン工学科

◆ 建築学部

学部長 秋元 孝之

- 建築学科

芝浦キャンパス

〒108-8548 東京都港区芝浦3-9-14
JR山手線・京浜東北線「田町駅」より徒歩3分
都営地下鉄・三田線・浅草線「三田駅」より徒歩5分

豊洲キャンパス

〒135-8548 東京都江東区豊洲3-7-5
東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分
ゆりかもめ「豊洲駅」より徒歩9分
JR京葉線「越中島駅」より徒歩15分

大宮キャンパス

〒337-8570 埼玉県さいたま市見沼区深作307
JR宇都宮線「東大宮駅」よりスクールバス5分、または徒歩20分

芝浦工業大学大学院

◆ 理工学研究科

研究科長 中村 仁

修士課程

博士（後期）課程

- 電気電子情報工学専攻
- 応用化学専攻
- 国際理工学専攻
- 建築学専攻
- 地域環境システム専攻
- 機能制御システム専攻
- 材料工学専攻
- 機械工学専攻
- システム理工学専攻
- 社会基盤学専攻

SIT総合研究所

所長 西川 宏之

◆ SIT総合研究所

- グローバル建築技術研究センター
- 先進国際研究センター
- 社会システム科学研究センター
- サステナブル居住工学センター
- グリーンエレクトロニクス国際研究センター
- インフラメンテナンスDXセンター

芝浦工業大学附属中学高等学校

校長 佐藤 元哉

〒135-8139 東京都江東区豊洲6-2-7
東京メトロ有楽町線「豊洲駅」より徒歩7分
新交通ゆりかもめ「新豊洲駅」より徒歩1分

芝浦工業大学柏中学高等学校

校長 中根 正義

〒277-0033 千葉県柏市増尾700
東武アーバンパークライン(野田線)「柏駅」よりスクールバス15分
東武アーバンパークライン(野田線)「新柏駅」よりスクールバス5分、または徒歩25分

学生・生徒数		教職員数		施設概要			
●大学	7,962人	●専任教員	大学	330人	●大学・大学院	土地	202,929.44㎡
●大学院	1,537人		附属中学校・高等学校	67人		建物	139,537.67㎡
●附属中学校	494人		柏中学校・高等学校	76人	●附属中学高校	土地	14,499.03㎡
●附属高等学校	655人	●専任職員	大学	184人		建物	18,087.80㎡
●柏中学校	588人		附属中学校・高等学校	5人	●柏中学高校	土地	52,739.68㎡
●柏高等学校	922人		柏中学校・高等学校	5人		建物	15,816.72㎡



芝浦工業大学

芝浦工業大学は、建学の精神をグローバル化の現状に即して読み替え、「世界に学び、世界に貢献する理工系人材の育成」を基本に据え、教育に取り組んでいます。



教育の特色

Centennial SIT Action

芝浦工業大学は、創立100周年を迎える2027（令和9）年に、アジア工科大学のトップ10に入るという目標を設定しました。

世界のグローバル理工系大学に向かって進むために、大学として、次の5項目からなる取り組み課題を据え、Centennial SIT Actionとして宣言しました。

- 1 理工学教育日本一
- 2 知と地の創造拠点
- 3 グローバル理工学教育モデル校
- 4 ダイバーシティ推進先進校
- 5 教職協働トップランナー

Centennial SIT Action

これら取り組みに対し、常に数値データ(KPI: Key Performance Indicator)をもって行程を管理し、PDCA (Plan-Do-Check-Act) サイクル展開による目標達成に臨みます。数値目標には、学生の学修時間数、日本人学生海外経験率、学生の英語力、外国人留学生比率、教員の年間論文件数、企業等との受託・共同研究件数、女性教員比率、女子学生比率などを含んでいます。100周年には真のスーパーグローバル大学たることを目指して、「常に前進する文化の醸成」をモットーに教員と職員と学生が協働で前進していきます。

Centennial SIT Action 100周年(2027年)の芝浦工大

アジア工科大学トップ10



大学の使命 (University Mission) 世界に学び、世界に貢献するグローバル理工学人材の育成

大学認証評価



芝浦工業大学は(財)大学基準協会による大学相互評価ならびに認証評価受審の結果、大学基準に適合していると認定されました。

※「認証評価」とは、教育研究水準の向上に資するため、学校教育法第109条に定める、文部科学省の認証を受けた「認証評価機関」による評価を指し、すべての大学はこの評価を法令で定める期間ごとに受審することが義務付けられています。

認証期間：

2019(平成31)年4月1日～
2026(令和8)年3月31日

2024(令和6)年4月、工学部が学科制から課程制への移行を計画

工学部ではこれまでの学科制から、より多様で柔軟なカリキュラムを構築できる課程制への移行を2024(令和6)年4月に計画しています。現在、工学部には9学科1課程が設置されています。今回の課程制導入により課程の下にコースを設置して「6課程・9コース」へと移行します。課程制の導入は、一つの特化した専門知識だけでなく、幅広い専門知識が必要とされる、現代社会の変化に対応した学びを可能にします。

主コースの専門分野に加え、分野横断的な知識や技術を学ぶことができる「副コース制」を導入し、3年生から研究室に所属することで早期から卒業研究に着手します。多岐にわたるスキルを持つスペシャリストを育成し、ある特定の産業に限らず、社会が抱えるさまざまな課題を工学的な立場から解決できる人材を育成していきます。

※設置計画は現在構想中であり、内容が今後変更になる場合があります



まずは大人から
変わろうと思った。

経済成長を止めたのが心配な人も、
少子高齢化を止めたのが心配な人も、
環境問題が心配な人も、
未来は変わらなければならない。
2024年、芝浦工業大学で新しい学びを始める。
これまで以上に多様な知識や技術(副コース)に習得。
卒業研究の取り組みを始める。卒業生が活躍しています。
就職先は、大企業、中小企業、ベンチャー企業、等。

芝浦工業大学
〒108-8565 東京都港区芝浦4-10-10
TEL: 03(3464)1111(代表) FAX: 03(3464)1112

大学設備



豊洲キャンパス

TOYOSU

ビジネスと暮らしが融合する産業創造の拠点として注目のエリア「豊洲」。そのまちびらきの年となった2006(平成18)年に誕生したのが豊洲キャンパスです。あらゆる研究設備を備え、開放性を重視したキャンパスは、芝浦工業大学が推進する、地域とのコミュニケーションを通して知識と人間力を育てる実学の実践を支えており、工学部の3・4年生と建築学部生および大学院生が学んでいます。教育研究設備充実のため、2022(令和4)年後期授業利用開始を目指し、新校舎(本部棟)開設準備を進めています。



大宮キャンパス

OMIYA

広大な敷地に緑があふれる大宮キャンパス。愛称となっている「グリーンキャンパス」は、学校法人芝浦工業大学が商標登録しています(商標登録第4584482号)。工学部およびデザイン工学部の1・2年生とシステム理工学部生および大学院生が学び、部活動やサークル活動の拠点にもなっています。2017(平成29)年3月には人工芝の総合グラウンドが、2019(平成31)年4月には第2グラウンドも完成しました。



芝浦キャンパス

SHIBAURA

2009(平成21)年4月にキャンパスを建て替え新たに開校した芝浦キャンパスは、法人本部があり、デザイン工学部の3・4年生および大学院生が学んでいます。今まさに再開発の進む芝浦エリアで刺激を受けながら学ぶことはもちろん、少し足を延ばして、東京を代表する街や施設で最先端の流行を肌で感じることもできます。

国際学生寮



グローバル人材の育成を目指す場として、2013(平成25)年大宮キャンパス(北門より徒歩2分)に開設。

東大宮学生寮



2016(平成28)年、人間力の育成を目的とした男子学生寮を大宮キャンパスの最寄駅であるJR東大宮駅近くに開設。

白亜寮



2022(令和4)年春より、駅伝部専用寮として利用開始。チームでの箱根駅伝出場を目指し、生活環境を整える。

創立100周年プロジェクト

豊洲キャンパスに本部棟が竣工

2022(令和4)年4月、豊洲キャンパスに地上14階、地下1階の新校舎建築工事を完了し、「本部棟(Centennial Main Building)」として竣工しました。創立100周年となる2027(令和9)年に「アジア工科大学トップ10」を目指して、グローバル教育・大学院教育をさらに充実させ、研究力強化を図ります。本部棟の中には、英語で学部教育を行う先進国際課程の研究室を設置。研究室の区切りのない自由な交流ができるオープンラボ、そして外部組織との共同研究を推進する「ベイエリア・オープンイノベーションセンター」が開設されます。



©藤井浩司/TOREAL

芝浦工業大学附属中学高等学校

2017(平成29)年4月に開校した新豊洲校舎は最先端のICT教育設備と運動施設を備えています。大学の豊洲キャンパスから徒歩16分の距離にあり、他に例を見ない充実した中高大連携教育が行われています。2021(令和3)年度には中学校も男女共学となり、創立100周年を迎え、ますます教育を充実させていきます。



教育の5つの柱

理工系教育

多様な理工系の専門分野に取り組むサイエンステクノロジーアワーや国語、英語、音楽などすべての学科と科学技術との関わり合いを学ぶショートテックアワーの授業を設けるなど、文理の枠を超えあらゆる分野に精通する「理」「工」の基礎を学び、体験する教育を行っています。

大学連携教育

中学生のものづくり講座、高校入学生向けの「Arts & Tech」では、バスタブリッジやロボットの製作を大学の教授の指導のもと、大学生の補助を受けながら実施されます。また、大学見学会、理系講座など充実したキャリア教育も、芝浦にしかない取り組みといえます。

言語教育

これからの理工系人材に求められる日本語、英語、コンピューター言語の3つの言語力を育てます。特に「論理力・伝達力・分析力」を柱に言葉を操る技術を訓練するランゲージアワーやRuby、C言語といったプログラミングの基礎を学び、レゴマインドストームやドローンを使ったロボット制御を実際に体験する授業は他校でも類をみないプログラムです。

KASHIWA

芝浦工業大学柏中学高等学校

千葉県柏市の増尾城址公園に隣接した自然と緑に囲まれたエリアに立地しています。近年は校舎の整備が進み、県道側隣接地には第3グラウンドを造成。体育の授業やクラブ活動を行う第1グラウンドにはミストの噴出装置を埋設した人工芝とLED照明を導入。2021(令和3)年度には充実したICT教育の基礎となる校舎全域のWi-Fiネットワーク拡充を行うなど、学びの場の環境づくりに力を入れています。



教育の特色

総合的な教養力と受験力の向上につながる教育

建学の精神として「創造性の開発と個性の発揮」を掲げ、おおらかな進学校として着実に成果を上げつつ、健康的で人間性豊かな生徒の育成を目指しています。創意あふれる授業と授業以外のさまざまな教育活動をきめ細かく織り込むことで、総合的な教養力を向上させ、生徒の人格や教養を高めます。2018(平成30)年度にはSSHの再指定を受け、芝浦工業大学の協力を得ながら、理数教育に特徴のある一貫校としてチャレンジし続けています。さらに、近年はこの教育プログラムを発展させ、文系・理系の枠組みにとられない課題探究活動も実践しています。生徒の自学自習、主体的で協働的な取組が学力定着・向上に結実するように、2017(平成29)年度からは学校独自に作成した「SK学習ルーブリック」の運用を開始。生徒自らが目標を立て、現状を冷静に見極めたうえで、目標達成に向けて具体的な対応策を考え行動に移すという今後の自己実現に欠かせない能力の涵養に努めています。



化学実験室

グローバル教育

1994(平成6)年から実施している中学3年生の海外教育旅行では全員がアメリカで2週間のホームステイを体験し、生きた英語と文化、思考を体感します。高校入学生はカナダで1週間のホームステイをすることで、真のグローバル人材の育成を目指します。

探究教育

探究教育では「理工系の知識で社会課題を解決」できる、未来を創造する生徒を育てることを目標にしています。PBL型の授業を通じてものづくりにおけるデザイン思考やグローバルな視点での国際性や多様性を身につけます。中学3年生では身につけた思考法や表現方法を用い、アウトプットする力も身につけます。



自己実現を支援するカリキュラムの骨子

◆中高6年間の総体系

「ホップ期」(中学1・2年):入試成績優秀者を「グローバル・サイエンスクラス」に集めますが、全クラス国数英を中心に基礎学力を涵養し、学習習慣と意欲を身につけ、学力の土台を根付かせます。

「ステップ期」(中学3年・高校1年):教育目標(サイエンス、グローバル)の総仕上げを行う時期にあてます。高校1年生には国数英でバランスのとれた学力を身に付け文理を選択します。「グローバル・サイエンスクラス」はメンバーの入替を経て、最難関大を目指すクラスとして本格的に始動します。

「ジャンプ期」(高校2・3年):文理に分け、大学受験を真摯に意識させます。特に高校3年次においては、各自の受験科目に合わせたカリキュラムに取り組ませます。

◆高校3年間の体系

併設中学校からの連絡進学生(中入生)と高校からの入学生(高入生)は、入学時点での国数英の進度に差があるため、1年次は原則的に別クラス編制となります。2年次に志望系に基づいたクラス編制としますが、一部科目では習熟度別授業を取り入れ、きめ細かな指導を行います。3年次には、各人各様の個別コース制ともいべき選択授業を少人数で展開し、進路目標の実現を図ります。

2021年度事業活動収支計算書

教育活動収支、教育活動外収支、特別収支に対応する収入および支出の内容、及び基本金組み入れ後の収支の均衡の状態を明らかにしています。

(単位：百万円)

科 目			予 算	決 算	差 異	前年度決算
教育活動収支	事業活動収入の部	学生生徒等納付金	16,284	16,273	11	15,809
		手数料	1,011	1,016	△ 5	1,011
		寄付金 1	303	256	48	406
		経常費等補助金	2,443	2,511	△ 68	2,711
		付随事業収入	666	809	△ 143	607
		雑収入	490	653	△ 163	422
		教育活動収入計	21,198	21,517	△ 320	20,967
	事業活動支出の部	人件費 2	8,847	8,940	△ 93	8,719
		教育研究経費 2	8,152	7,544	608	8,104
		管理経費 2	1,475	1,512	△ 37	1,308
		徴収不能額等	0	13	△ 13	24
		教育活動支出計	18,474	18,009	465	18,154
	教育活動収支差額			2,724	3,508	△ 784
科 目			予 算	決 算	差 異	前年度決算
教育活動外収支	収入の活動の部	受取利息・配当金	21	21	0	39
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0
		教育活動外収入計	21	21	0	39
	支出の活動の部	借入金等利息	63	61	2	61
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0
		教育活動外支出計	63	61	2	61
	教育活動外収支差額			△ 42	△ 40	△ 2
経常収支差額			2,682	3,469	△ 786	2,791
科 目			予 算	決 算	差 異	前年度決算
特別収支	収入の活動の部	資産売却差額	0	0	0	2
		その他の特別収入 1	164	171	△ 6	142
		特別収入計	164	171	△ 6	144
	支出の活動の部	資産処分差額 2	638	815	△ 177	167
		その他の特別支出	0	0	0	0
		特別支出計	638	815	△ 177	167
	特別収支差額			△ 473	△ 644	171
基本金組入前当年度収支差額			2,209	2,824	△ 615	2,768
基本金組入額合計 1			△ 5,490	△ 4,194	△ 1,296	△ 6,209
当年度収支差額 3			△ 3,281	△ 1,370	△ 1,911	△ 3,441
前年度繰越収支差額			△ 9,006	△ 9,006	0	△ 5,581
基本金取崩額			1,320	0	1,320	16
翌年度繰越収支差額 3			△ 10,967	△ 10,376	△ 591	△ 9,006
(参考)						
事業活動収入計			21,383	21,710	△ 326	21,150
事業活動支出計			19,174	18,885	289	18,381

(注) 表中の数字が四捨五入されている場合、合計は数値の総和と必ずしも一致しません。

POINT 1

寄付金：特別寄付金に加え、現物寄付6百万円の金額を計上しています。なお、施設設備の取得に使途を特定した寄付は、特別収支のその他の特別収入に計上されています。

基本金組入額：内訳は以下のとおりです。

- ①第1号基本金組入額：△3,694百万円
施設設備取得に係る組入額15,524百万円と過年度取得した資産に係る借入返済に伴う組入額611百万円から、資産の除却に係る取崩1,690百万円と第2号基本金の先行組入額5,750百万円、借入金5,000百万円を除いたものを組入れました。
- ②第2号基本金組入額：△500百万円
先行組入れとして、100周年記念事業資金(16年計画の11年目)500百万円を組入れました。
- ③第3号基本金組入額：△0.02百万円
各種奨学事業経費、顕彰事業経費の残額、及び同事業への寄付金を組入れています。

POINT 2

人件費：退職給与引当金の繰入不足額なども計上されています。

教育研究経費、管理経費：資金収支計算書の教育研究経費支出、管理経費支出に、減価償却額(各2,060百万円、90百万円)等が計上されています。

その他の支出(資産処分差額)：既存の建物・構築物、機器等の除却処理を中心に以下のとおり計上しました。

- ①建物処分差額 532百万円
 - ②土地処分差額 73百万円
 - ③構築物処分差額 11百万円
 - ④減価償却引当特定資産評価差額 135百万円
 - ⑤教育研究用機器備品処分差額 42百万円
 - ⑥図書処分差額 16百万円
- 等を計上

POINT 3

当年度収支差額：教育活動収支差額が予算比約8億円の収支改善となったこと、基本金組入額が同比13億円減少したことなどにより、予算比約19億円の支出超過額の減少となりました。

翌年度繰越収支差額：＝当年度収支差額＋前年度繰越収支差額＋基本金取崩額